

令和2年5月27日

乳製品需給等情報交換会議（書面開催）における意見（概要）

東宗谷農業協同組合

北海道の生産者は、安定的に生乳を供給するため、投資をし、増産を図ってきたところであり、ようやく生乳生産が増加に転じた。

6月上旬に生乳生産量がピークを迎える中、新型コロナウイルス感染症により減産を強いられることがないよう、北海道では生産者自ら消費拡大に取り組んでいる。関係者の尽力によって生乳廃棄や減産は回避される見通しだが、新たな酪肉近における生産数量目標に向けてこのまま進んでよいのか不安に思っている。

今年度のバターの輸入枠数量はオリンピック需要も織り込んで2万トとされていることに加え、国内でバターが大量に製造されて在庫が積みあがっていることを踏まえ、生産者にしわ寄せがいかないよう、適切な運用をお願いしたい。

ホクレン農業協同組合連合会

北海道の生乳生産は、生産基盤の維持・強化に向けた生産者の取り組みにより、ようやく増産基調となった。年末に向け、バター等の需要が季節的に高まる中で、インバウンドの減少や新しい生活様式による需要の変化が見込まれる。こうしたかつてない需給環境に対処していきたい。

北海道での脱脂粉乳・バター等向けの生乳販売は、前年同月比で3月は115%、4月は120%と大幅に増加している。

脱脂粉乳については、外出自粛による業務用需要の減少等による更なる在庫積み増しを踏まえ、今年度は輸入を見合わせる必要があると考えている。

バターについても、業務用需要が大幅に減少したことから、今後、需要を注視し、数量見直し（削減）を含めた適正な対応が必要と考えている。

一般社団法人 中央酪農会議

全国の指定団体の受託販売乳量は、昨年9月以降増産基調で推移している。北海道での生産拡大によるところが大きいですが、4月の都府県の受託乳量はほぼ前年水準に回復している。

新型コロナウイルス感染症の拡大による生乳廃棄が生じないように、広域需給調整に取り組んでいる。生産基盤強化に向け、今後の需要期においても、引き続き取り組みを継続していきたい。

脱脂粉乳は、Jミルクの見通しでは、国内生産が出回りを上回ることに加え、既に在庫が相当水準にあるため、適切な輸入枠の設定をお願いしたい。

バターは、国内生乳生産基盤強化の阻害要因とならないよう、用途別・形態別の在庫量・消費動向等を踏まえ、適切に運用するようお願いする。

一般社団法人 Jミルク

新型コロナウイルス感染症の拡大で業務用需要が停滞し、脱脂粉乳の在庫が深刻な水準となって、業務用バターも積み増しが進んでいる。当面、外食機会やインバウンド需要の回復も見込めず、業務用需要は低迷すると考える。

家庭用バターについては、小中学校の夏休みの短縮によって7~8月の学校給食用牛乳の供給のため、都府県の生乳需給は例年よりひっ迫すると見込まれ、バター主産地である北海道から都府県に生乳を例年以上に輸送する必要があることから、在庫の積み上げが難しくなる可能性が高い。年末に家庭用バターが不足することがないよう、業界関係者は準備を進める必要がある。

一般社団法人 日本乳業協会

メディアで取り上げられたり、休校や外出自粛による巣ごもり需要（お菓子作り等）が加わって家庭用バターの需要が急増している。家庭用バターは年間を通じて安定的に売れているため製造能力に限られる中で、過去に例を見ない消費の急増に供給が追いつかない状況である。このため、一部のスーパーで欠品が生じているが、一時的なものであり、休校や外出自粛が解除されれば次第に解消されると考えている。

一方、休校に伴う学校給食用牛乳の停止に加え、インバウンド需要及び外食等の業務用需要が急減している中、農水省主導のプラスワンプロジェクト等による飲用牛乳需要の増加や免疫機能を意識したヨーグルト需要の増加にもかかわらず、生乳の加工向け処理が急増しており、業務用バター及び脱脂粉乳の生産・在庫が増加している。

生乳生産が増加傾向にある一方で、需要は全体としては減少傾向にあるため、乳製品の輸入枠については、需要に応じて見直しを行い、特に、脱脂粉乳については、生産が需要を上回ると見込まれるため、必要最小限にとどめてもよいと考えている。

卸売業者

卸売から小売への家庭用バターの出荷量は近年に例がないほど大幅に増加している。これは、メディアでバターが免疫力を高めると報道されたことや緊急事態宣言にともなって巣ごもりによる料理需要（特にお菓子需要）が高まったことによるもので、小売業売場に品薄感がある。打開策として、主要メーカーで業務用ポンドバターの小売業販売を模索するケースがあるが、商品包装が破れやすいなど、課題も多い。今後、非常事態宣言の解除によって、学校が再開されれば、徐々に需要は落ち着いてくるものとする。他方、家庭の冷蔵庫には予想以上にバターがストックされている可能性があるため、6、7月の動向を注視したい。

業務用のバターの仕向け先については、百貨店関連の営業自粛にともない、洋菓子や焼き菓子、お土産関係の荷動きが非常に悪い。地方のお土産等においても同様の状況である。

脱脂粉乳については、仕向け先である発酵乳の販売は好調だが、需要は落ち着いているため、輸入枠については、日米貿易協定に基づくものを除き不要と考える。

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

スーパーではバター需要が高く、品薄や欠品が発生しており、多くの店舗において購入点数制限を行っているが、今後は学校や飲食店の再開によって家庭での需要は次第に落ち着いていくものと予測している。

小売サイドとしては、現在の品薄状態は需要の落ち着きと供給の増加によって近々に解決が図られるものとみている。むしろ需要が拡大する年末に不足が起きないように、十分な対策を取ってほしい。

一般社団法人 全国消費者団体連絡会

新型コロナウイルス感染症の拡大により、牛乳乳製品市場はこれまでに経験のない変化と課題に遭遇している。生乳生産がピークを迎え、行き場を失った生乳が廃棄されることがないように、生産者・メーカーと消費者が一体となって対策を進めていきたい。

新しい生活様式により、食や健康への意識には変化が見られる。夏の猛暑や台風被害も心配である。バターをはじめ、乳製品を安定供給するには十分な備えが必要である。

日本の牛乳を救う「プラスワンプロジェクト」の成果について消費者へのフィードバックをお願いしたい。

一般社団法人 日本パン工業会

バターについては、全体では足りているが、国産の業務用バラバターの供給が少なく、輸入品で補っている状況である。需要者からさらに国産を求められてくると支障を生じるため、今後、国産の業務用バラバターの供給を増やしてほしい。

協同組合 全日本洋菓子工業会

洋菓子製造業では、バター等乳製品について、需給、価格ともに問題は生じていない。

一般社団法人 日本洋菓子協会連合会

菓子業界では、現在のところ乳製品、特にバターについての大きな問題は見られませんが、新型コロナウイルス感染症の影響は、緩やかであったとしても今後長く続くと感じている。そのことによって国内外の乳製品の生産に影響が出ることを心配している。

全国菓子工業組合連合会

乳製品需給については、特段の問題は生じていない。

(以 上)